

<A.テーマ研究分科会のプレゼンテーションの要点まとめ>

1.「ひと」班

- ・協働に対する市民の意識の底上げが必要です。(若い世代の取組みなど)
- ・コーディネーターの育成
 - ⇒行政が責任を持って関与して欲しいですね。
 - ・ハイレベルで適切なファシリテート能力を求めます。
 - ・3年で100人育成を目標に掲げました。
 - ・コーディネーターは誰でもできるという訳ではありません。素養が必要です。
- ・行政職員の人材育成も必要です。(行政は研修等を通して実施。)
- ・社協のコーディネーター、町内会、生涯学習コーディネーター・・・etc これらをうまくファシリテートできる職員及びコーディネーターをつくりたいですね。
 - ⇒育成の連携の仕組みをどのように考えるかが課題です。
- ・各グループから代表を出してもらって、ネットワークをつくれると良いですね。サポータークラブの設立が望ましいと考えます。

2.「場所」班

- ・組織化(NPO 法人)した活動団体が少ないですね。
- ・すでに市内には色々な施設があるのですが、そこに行けば何か協働事業を行っていて、市民がそれに参画できる、もしくは既存の施設がそういう場所になると良いですね。そして市民に「見える化」されたものであって欲しい。
- ・第3セクター、公民館、町内会への情報交換、関係機関との連携が不可欠です。連絡会議の開催が望ましいですね。
- ・協働するきっかけをつくる中間支援組織が必要ですね。これは「民」の立場で支援して欲しい。サポータークラブ設立が望ましいと考えます。

3.「お金」班

- ・助成を受けるためには内容の透明性を上げる必要があります。これはハードルが高くなりがちです。
 - ⇒もっとハードルの低い助成があっても良いと思います。
- ・寄付の集め方について。寄付するとどんなメリットがあるか理解が深まるとお金も集まりやすいかな、と思います。
- ・「(仮称)あんねっと基金」を創りませんか。市が管理して、個人や企業から寄付を集める姿をイメージしています。控除枠を拡大することで、メリットを増やして。
- ・寄付を集めるユニークな事業展開が欲しいですね。例えば、ファンドレイジングなど。基金の使い道に目的を付けて、寄附者の想いを集めやすくするとか。
- ・団体が基金を運営することが望ましいと考えます。お金を集めて、審査し、そして支援します。

4.「情報」班

- ・市役所内外との情報の連携が深まると良いですね。
- ・社協、市民交流センター、生涯学習センター、町内会、公民館で情報交換や交流が必要だと考えます。

- ・民間的な考え方で、持続可能な中間支援組織を設立してはいかがでしょう。相互協力的な組織になると良いですね。人・知恵・仕組が大切です。
- ・情報収集の方法を教える人も必要です。

＜B.車座による全体フリートークまとめ「テーマをつなぐ仕組み・体制」＞

1.テーマを超えてつなぐ仕組み・体制としてどんなことが考えられる？

- ・ 根本として大切なのは「私がこれをしたい！」という熱い思い。これが一番必要。
→ただ、何をしたいか分からない、という人もいるんだよね。
- ・ 「かけこみ寺」のような場所があると良いね。そこに行けば、誰かが相談にのってくれるような。

2.市民センター、公民館など既存の場所ではダメかな？

- ・ ダメじゃないけど、たまり場になって、ふらっと気軽に寄れることが大事。
→建物のせいじゃあないんじゃないの？
- ・ 市民活動センターは機能的には充実しているけど、実はフリーのスペースが少ない。
- ・ そういう雰囲気の場合にしていくことが大切。
- ・ 相談相手がいないとネ。
- ・ 持っているネタ、情報、ネットワークを活用できるよう、背中を押してくれる仕組みがあるといいなあ。
- ・ 口コミのネットワークが広がるといいね。
- ・ 今よりハードルを下げて、なるべく多くの方が参加できるようになると良いね。特効薬はないよね。
- ・ まだ何もしていない人には、多くの場(施設)があった方が良い。

3.そういう場はたくさんあった方がいいの？それともハブ的な中心施設があった方が良い？

- ・ 情報、人が集まるハブ的な場所があると良いなあ。
- ・ 初めて活動しようとする人には、もっと身近にある方が良いよ。
- ・ お医者さんの関係性に似ているかも。一番最初は町医者に行って診てもらうけど、高度な診療が必要な場合は総合医療施設に行く、というように使い分けができると良いね。
- ・ Facebook のように、ある人が持っているネットワークと違う人の持っているネットワークがつながって大きな広がりになると良いね。

4.本気になる為に

- ・ 地域で、野菜を作る仲間とお金を出し合って集会場を建てちゃいました。100人で、1人当たり十万円ずつ出し合って、¥1,000万集めました。そうすると、その後もすごく人が集まります。本気度が違うんです。お金を出したんだったら、その分だけ活用して元を取らないと損だ、と。
- ・ 地域によって温度差がありますよね。
- ・ そんな眠れる人達をたたき起こさない。
- ・ お金を集める為にコンサートするなど、少しでも収益を得ることを考えることが必要かも。
- ・ 100円でも寄附払えば、目を光らせる、かな。
- ・ 私達の活動では企業協賛をもらっています。その場合、常に活動報告が求められます。何か活動したら、すぐにTELして報告するようにしています。それを怠ると企業からすぐに電話がかかってきて、こないだの活動どうでした？と聞かれます。ほんと、お金をもらうというのは大変なんです。

- ・「活用しないと損だ。」というのは「きちんと責任を持って使う」ということ。

5. 連携・つなぎ方の手法は？

- ・ まず、声をかけたときに「協働」の意味が知られていないから、理解してもらえないこともある。
- ・ その理由を考えることが、連携の方策かも。
- ・ 行政（市民協働課）や市民活動センターと連携・活用する為にも「サポータークラブ」ができて、つなぎ役を担ってくれるといいなあ。
- ・ 色んな活動からスター的な人材が生まれるといいですね。そしてスターとスターが手を結ぶことで、活動に広がりが出るといいなあ。

6. 町内会など地縁団体とのつながりはどうしよう？

- ・ 十何年住んでいても、やっぱりヨソモノといわれてしまう。それに若者は中に入らない。それならば、もう町内会組織を NPO 化するしかないのでは、という所感を持っています。
- ・ 町内会にとっては、新しく越してきたマンション住民と、どうやって協力関係を築いていくかが課題。私たちの町内会では思い切ってマンションの組合に町内会加入を持ちかけてみました。意外にも積極的に参加してくれて、大いに助かっています。そんな風にパワーを得られた例もあります。むしろ大きな力になる可能性を秘めています。

以上